

目次

はじめに
目次
用語について



第1章

遠隔による自立活動の指導を始めるにあたって 実施上のポイント Q&A ……1

- (1) 環境のデザインに関すること……………2
- Q 1 オンラインを活用した自立活動の指導を行いたいと思います。
どのような準備が必要でしょうか。——2
- Q 2 オンラインを活用した自立活動の指導を、家庭とつないで行いたいと思います。どのような準備が必要
でしょうか。——4
- Q 3 児童生徒の障害の特性や困難さに応じて、Web会議システムをどのように有効活用することがで
きるでしょうか。——6
- (2) 授業のデザインに関すること……………7
- Q 4 自立活動の指導において、オンラインを活用した指導と、対面による指導には、どのようなメリット・
デメリットがあるでしょうか。——7
- Q 5 オンラインを活用した自立活動の指導を行いたいと思います。効果的な指導を行うためには、どのよ
うなことに留意したり、配慮したりすればよいでしょうか。——9
- Q 6 オンラインを活用した自立活動の指導においては、児童生徒のどのような指導上の効果が期待でき
るでしょうか。——12
- Q 7 「自立活動の指導の効果が、通常の学級においても波及することを目指していくことが重要である。」
(参照:学習指導要領解説の総則編 P110)ことから、どのように連携を生かした授業づくりをして
いけばよいでしょうか。——13
- (3) 連携づくりに関すること……………14
- Q 8 遠隔による自立活動の効果的な指導が行われるよう、学校は家庭(保護者)と、どのように連携して
いけばよいでしょうか。——14
- Q 9 遠隔による自立活動の効果的な指導が行われるよう、通級による指導の担当教師は、在籍校・在籍
学級担任等と、どのように連携していけばよいでしょうか。——15
- Q10 遠隔による自立活動の効果的な指導が行われるよう、学校は、関係機関や外部の専門家と、どのよ
うに連携していけばよいでしょうか。——16



第2章

遠隔を活用した実践……………17

- (1) 遠隔でのやりとりを含めた、児童生徒の実態把握——18
- (2) 遠隔による評価——21
- (3) 遠隔でのやりとりを含めた、外部の専門家や在籍学級担任(他校を含む)等との連携——23



第3章

オンラインを活用した(学びの場での)指導事例……………27

(1) 特別支援学級……………	28
① 指導事例1 肢体不自由……………	28
② 指導事例2 自閉症・情緒障害……………	32
(2) 通級による指導……………	36
① 指導事例3 聴覚障害……………	36
② 指導事例4 言語障害……………	40
③ 指導事例5 注意欠陥多動性障害……………	44
(3) 通常の学級……………	48
① 指導事例6 小学校の通常の学級……………	48
② 指導事例7 中学校の通常の学級……………	52



第4章

資料……………57

(1) 資料のご案内……………	58
(2) 通知・文献……………	58
(3) 実践報告会資料……………	59
(4) 企画会議等委員……………	73

用語について

本冊子では、文部科学省発行の「遠隔教育システム活用ガイドブック第3版」を参考にし、次のような意味で使用しています。

ICTの活用	ICTの活用のイメージは、情報の収集、編集、交換、発信をするなどが考えられる。学校で使われている主なICT機器としては、パソコン、タブレットPC、電子黒板といった機器やプリンタ、プロジェクタ、液晶テレビ、ディスプレイといった周辺機器などがある。これらの機器を障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じて活用することで、指導や支援を充実させる。
遠隔による指導	タブレットPCなどを使ってインターネットにつなげたり、リモコンなどを使って遠隔で操作したりして、離れた場所同士で映像や音声などのやりとりをしながら行う指導のこと。(オンラインを活用した指導・オンデマンドを活用した指導、共に含む)
オンラインを活用した指導	タブレットPCなどを使ってインターネットにつなげ、離れた場所同士で映像や音声などのやりとりをしながら行う指導のこと。
オンデマンドを活用した指導	タブレットPCなどを使ってインターネットにつなげ、録音・録画したビデオや資料を見たり聞いたりしながら行う指導のこと。